

人類に課された責任

3年 高原 菜月

今あなたの目の前にある物の 100 年後、1000 年後の姿を想像したら、あなたはそれが自然環境に悪影響を与えていないと言えるだろうか。

私は、私たち人類は、人類が作った製品をすべて土に還すことができるようになるまで責任をもつべきだと考える。それは人類の作る製品は存在する限り自然環境に悪影響を与える可能性をもつからだ。

人類のもつ責任が問われている製品としてまず思いつくのはプラスチックだろう。現在は主にゴミとして焼却された後、埋め立て処分となっているが、一部は山や海に流出してしまっている。ここで大きな問題となるのは今までに製造されたプラスチックの多くは分解できないということだ。生物はプラスチックを消化できないため、実際に魚や鳥が誤ってビニール袋などを食べ、それが胃や腸に詰まって死んでしまうということが起きている。また、プラスチックには親油性の有害物質が吸着されやすく、食べたプラスチック自体が体外へ排出されたとしても、生物に害を及ぼす可能性がある。そしてそれは、自然界の生物だけの問題ではない。私たちが食べている魚や貝の中にはプラスチックが含まれているものがあり、人体にプラスチックが蓄積されつつあるということが研究によって分かっている。しかも、その危険性は未知であり、解決策も見つかっていない。このようにプラスチック 1 つとっても、それによって引き起こされた諸問題を解決するのは非常に困難なように思えるが、もちろん問題はこれだけではない。ゴミ、産業廃棄物、発電に伴う放射性廃棄物、宇宙デブリなど、上げればきりが無い。

実際に起きているこれらの問題を現在の科学技術で解決することは不可能だろう。だが、私は、いずれは人類の手で全ての問題を解決しなければならないと考える。私たちは技術を発展させることで、自然環境に散在する製品を回収し、埋めてあるだけの廃棄物を分解して土に還さなくてはならない。人類が地球に与えたものが不利益だけになってはならない。それは現在まで自分たちの目先の利益を追求するあまり、それに伴って発生する問題とその結果を考慮せずに自然を破壊し、多くの命を奪ってきた私たち人類に課された責任である。地球は人類のものではない。約 46 億年の地球の歴史の中で繁栄してきた他の生物と同じように、人類にも次の世代へ地球を渡す役目があるはずだ。

では今の私たちがすべきことは何だろうか。まずは先ほども述べたように科学的技術を発展させることだ。しかし、解決策を探している間に取り返しのつかないことが起きてしまったら元も子もない。食物から体内に入ったプラスチックが人体に悪影響を及ぼし始めるかもしれない。地殻変動が起き、埋めてある放射性廃棄物が地上に出るかもしれない。様々な種の生物が絶滅してしまうかもしれない。どれも十分に可能性のあることだ。そのため、できるだけ早い技術の開発だけでなく、実際に起きている問題に対する速やかな対応も求められる。具体的には問題のある産物を自然環境から取り除くと共に、可能な限り生態系や環境に与える影響を少なくした製品を使っていくことが必要だ。それには、世界中の人々が人類の作る製品が引き起こす問題の重大性と解決の難しさを認識し、世界全体

で協力することが不可欠だろう。今、人類一人一人の姿勢が問われているように感じる。

人類は、人類の作る製品に対して、それが土に還る時まで責任をもつべきだ。それは非常に困難で長い時間がかかるが、これからも生物が地球で安全に生きるために必要であり、決して諦めてはいけないことである。